

越中覽古(李白)

越王勾踐破吳歸 義士還家盡錦衣
宮女如花滿春殿 只今惟有鷓鴣飛

越王 勾踐 吳を 破つて 帰る

解説 この詩は、李白が越中の地で、春秋時代の越の国の古跡を見て、当時のおもかげをしのいで作ったもの。

義士 家に 還つて 尽く 錦衣す

語釈 ※越中||越の都。※勾踐||勾踐とも書く。春秋時代の越の王の名。
※義士||ここでは、越王と、ともに戦った人々。※鷓鴣||きじ科の鳥。

宮女 花の 如く 春殿に 満つ

只今 惟 鷓鴣の 飛ぶ 有り

通釈 かつて春秋時代、越王の勾踐が、長い年月に亘り、ついに吳を打ち破つて凱旋して来た。これに従つて忠節を尽くした勇士たちも家に帰って、恩賞として賜った錦の衣服で着飾っていた。宮中の女性たちは美しい花のようにあでやかに春の宮殿に満ちあふれていた。だが、今はただ、鷓鴣がわびしく飛びまわっているだけである。